



本展はアーティスト横尾忠則をゲスト・キュレーターに迎えた展覧会です。横尾さんが自らの個展をキュレーションするのは、公立美術館では初の試みです。

タイトルの「自我自損」は、エゴに固執すると損をする、という意味の造語です。その背景には、自らの旧作に容赦なく手を加えて新たな作品へと変貌させたり、同一人物とは思えないほど大胆にスタイルを変化させる、横尾さんの絶えざる自己否定、そして一貫したテーマである「自我からの開放」があります。

本展では、横尾さんが自ら出品作品を選定し、展示プランを考案します。現役アーティストの名を冠した美術館ならではの野心的な試みに、どうぞご期待ください。

山本淳夫 | 当館館長補佐兼学芸課長

横尾忠則《原郷》2019年 | 作家蔵

# the Y+T Times

横尾忠則現代美術館ニュース

Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art NEWS LETTER



## 兵庫県立美術館 | 展覧会スケジュール

### 特別展

ICOM京都大会開催記念  
集めた! 日本の前衛—山村徳太郎の眼 山村コレクション展

2019年8月3日(土)~9月29日(日)

富野由悠季の世界展

2019年10月12日(土)~12月22日(日)

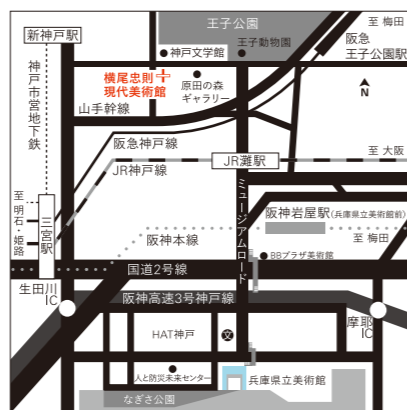
### コレクション展

小企画 | 美術の中のかたち—手で見る造形 八田豊展 流れに触れる

特集展示1 | けんぴ八景—新収蔵作品紹介

特集展示2 | 没後80年 村上華岳

2019年7月6日(土)~11月10日(日)



### 開館時間

10:00-18:00

(展覧会開催中の金・土曜日は

10:00-20:00)

※入場は閉館の30分前まで

休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始 メンテナンス休館



facebook  
twitter

Y+Tメールマガジン登録

www.ytmoca.jp/news/index.html

Y+T MOCA

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888

www.ytmoca.jp

※兵庫県立美術館の特別展又はコレクション展の有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどをご確認ください)

### 編集後記

東京での個展や講演会、映画の装飾美術など、様々な場所で大活躍の横尾さん。当館の次回展では、なんと横尾さんをゲスト・キュレーターにお迎えします! どうぞお楽しみに(尾崎)

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.22

2019年9月3日発行

編集・発行:横尾忠則現代美術館

印刷:岡村印刷工業株式会社

### Topics

最近の横尾さん

### Column

01 横尾忠則「B29と原郷—幼年期からウォーホールまで」

02 作品・資料の保存と活用6 —展覧会前の修復処置—

### Event Report

01 百花繚乱華舞台

02 ワークショップ「重なるイロとカタチ」

### Editor's Choice

アーカイブルーム・MUSEUM SHOP

### Information

次回展関連イベント

兵庫県立美術館 展覧会スケジュール

### Preview

横尾忠則 自我自損展 ゲスト・キュレーター:横尾忠則

22

2019.9.3

Special Report 人食いザメと金髪美女—笑う横尾忠則展

# MAN-EATING SHARK AND BLONDE-HAIRED BEAUTY



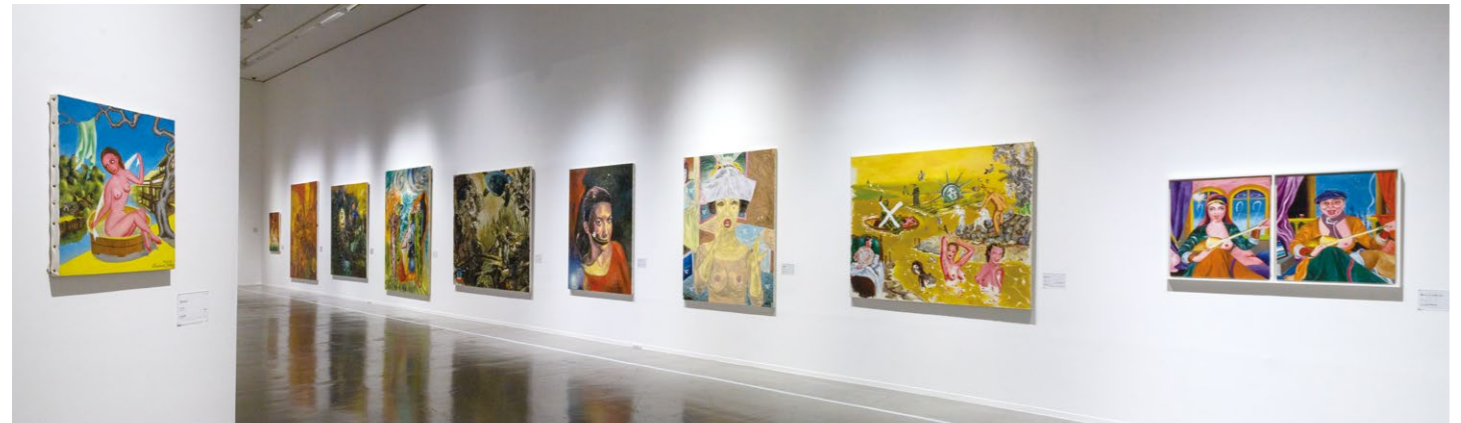
## Y O K O O T A D A N O R I L A U G H S

会場入口には、金色のフレームに収まった「人食いザメ」と「金髪美女」の姿。謎と毒と笑いが詰まった、本展のシンボリック作品《Panicぱにつくパニック》がヨコオワールドに誘います。本来出会うことのないモチーフが時空間を超えて同一画面に共存する不条理な世界は横尾作品の特徴のひとつ。それは「解剖台の上でのミンとコウモリ傘の偶発的な出会い」にも似たシュルレアリスムの芸術を想起させますが、横尾作

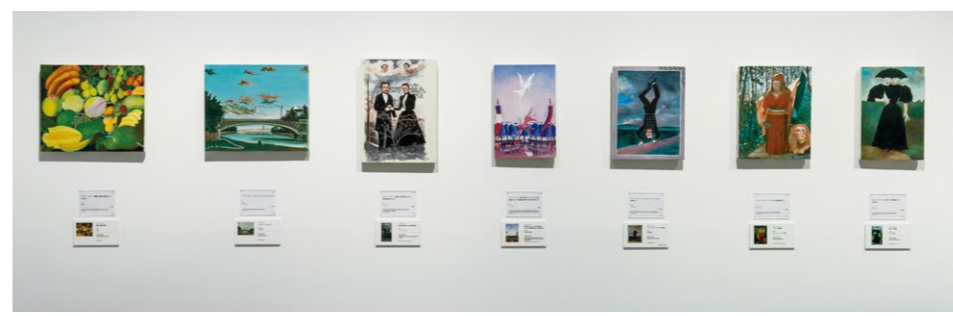
品にはどこか親しみやすさがあり、ふと笑ってしまう可笑しみが漂います。とりわけ死や性、信仰などを主題とした緊張感ある画面に挿入された弛緩的な要素には、作家のユーモアを感じずにはいられません。本展の第1章「仕組まれた謎」は、謎と隣り合わせのユーモアを中心に構成されています。モチーフの多くは、横尾さんが愛好する大衆芸術を切り取ったもの。少年時代に夢中になった江

額装された《Panicぱにつくパニック》2002-2010年作家蔵(当館寄託)

戸川乱歩や南洋一郎、ジュール・ヴェルヌの冒険小説の挿絵や、黒澤明、クエンティン・タランティーノの映画の一場面、原節子、三船敏郎、マリリン・モンロー、ナタリー・ウッド、マドンナといった著名人の肖像が横尾さんの私的な体験と融合され、現実と虚構を織り交ぜた物語の中に暗号のように散りばめられています。さらに、一度舞台上上がったモチーフは反復されては意味を重ね、記号化されることで、既視感と謎を増



ナタリー・ウッドや原節子、ヌードの女性たちに囲まれて細野晴臣さんの肖像も



初公開となるアンリ・ルソーのパロディ作品がずらり

幅させます。一見唐突に思えるモチーフの登場も、実は横尾さんの頭の中では繋がっている、ウェブ状に複雑に絡み合う作品どうしの関わりを、連想ゲームのような展示に置き換えてみました。第2章の「挑戦する笑い」のテーマはパロディ。アンリ・ルソー、ルネ・マグリット、ポール・デルヴォー、マルセル・デュシャン、レオナルド・ダ・ヴィンチ、クロヴィス・トルイユなどの絵画を参照、引用した作品は、彼らへのオマージュであると同時に批評でもあり、ブラックユーモアが効いています。ルソーが描く夢のような世界から悪夢を抽出して誇張し、マグリットに対しては、少年時代のヒーローに執着する前近代的な要素を発見して共感し、自分自身の物語と融合させて換骨

奪胎してみせます。パロディは作家から鑑賞者への挑戦状ともいえます。私たちは画中に違和感の正体を探し、横尾さんの視点を探るうちに、美術史を旅することになるでしょう。仕掛けられた毒に気づいた者には「笑い」というごほうびが用意されているのです。その対象は自作にも及びます。繰り返されるセルフパロディは、作品を完結させないための仕掛けなのかもしれません。DNAを移植され、変容し続ける作品は、時間という新たな軸を獲得し、「いま」の鑑賞者に挑み続けるのです。第3章「伝統と創造：スーパー狂言」では、横尾さんが手がけたスーパー狂言の美術を一挙公開。2000年、国立能楽堂委嘱作品として、原作：梅原猛、演出：二世茂山千之丞によるスーパー狂言「ムツゴロウ」が誕生し、横尾さんは初めて狂言のポスターと装束のデザインに携わります。続く第二弾「クローン人間ナマシマ」、第三弾「王様と恐竜」では舞台美術も担当。社会を風刺する狂言の性質と、環境破壊、クローン、



横尾さん自身による自作の複製《その後の天国と地獄》を一般公募による「横尾工房」が模写したプロジェクト型作品



「王様と恐竜」では、狂言としては珍しい仕掛けや着ぐるみも登場。スーパー狂言資料の展示構成はHIGURE 1-17 casによるもの



天井から吊るされた「ムツゴロウ」の装束

戦争といった現在進行形の社会問題を結びつけた、梅原・茂山コンビによる笑いの実験に、横尾さんは狂言の伝統に則りながらも、従来のかたちを絶妙にはみ出した装束や美術で応えました。スーパー狂言三部作には、伝統を継承しながら創造し、現在・未来の鑑賞者に繋ごうとする三者の真面目な遊び心が盛り込まれています。横尾さんの絵画とスーパー狂言の美術が響き合う空間は、「人食いザメと金髪美女」のような思いがけない出会いと笑いを創出しました。

平林 恵 | 当館学芸員



大谷選手を描いた《二刀流》はキャンバス自体が回転。その背景には「クローン人間ナマシマ」の装束。右手の《……but!》にはバットを凶器にする男性。連歌のように繋がっています

# Topics 最近の横尾さん

着る書評?

夢の中で書いていないはずの書評が「ヤレ」のように重層的に印刷されているのを見たという横尾さんが、実際の朝日新聞紙上で活字が重ね刷りされた『美術は魂に語りかける』の書評を発表。新聞とインターネットのメディアを横断した実験的な「書評作品」がSNSを賑わせました。そして、その書評がなんとTシャツとなって登場。

続く赤いTシャツは、『ピカソとの日々』の表紙写真シルエット上に白黒反転した文字で書かれたテキストがデザインされた、観る書評。さらに新聞掲載前の編集者とのやり取りがプリントされた遊び心いっぱいの『百鬼園』も発表され、書評Tシャツ3部作は完結です。



「美術は魂に語りかける」

「ピカソとの日々」

「百鬼園」



講演会「Meet the Artist: 横尾忠則」  
(6月28日 ハラ ミュージアム アーク)

ハラ ミュージアム アークにて講演会

ハラ ミュージアム アークで開催された展覧会「Yの冒険—原美術館コレクション」に合わせ、頭文字Yの作家を代表して横尾さんの講演会が開催されました。前日に伊香保温泉で83歳のお誕生日を過ごした横尾さんはリラックスモード。青野館長が館藏品一点一点について鋭く切り込みます。横尾さんは貴重なエピソードを明かしたかと思えば、「昔のことは忘れた」ととぼけたり……。和やかな雰囲気の中にも、「未完成」、「無責任」、「遊び」といった横尾さんの創作の基礎にあるキーワードが盛り込まれ、ピリッとスパイスの効いた講演会でした。

『いだてん』ポスター第3弾

マラソン選手・金栗四三役の中村勘九郎さんが回転する、横尾さんデザインのポスターが話題となったNHK大河ドラマ『いだてん〜東京オリムピック噺〜』。ドラマの舞台は水泳に移り、ポスター第3弾が登場しました。東京オリンピック招致の立役者、田畑政治役の阿部サダヲさんがプールの中で水を掻き、水面には波紋に合わせてIDATENの文字が揺れています。亀倉雄策デザインの1964年東京オリンピックポスターへのオマージュのようでもあり、プールをモチーフとした横尾さんの絵画作品をも思い起こさせる印象的なポスターです。



「いだてん〜東京オリムピック噺〜」第3弾ポスター



横尾ワールドと蜷川ワールドが出会います  
©2019「Diner ダイナー」製作委員会

映画「Dinerダイナー」の装飾美術を担当

蜷川実花さん監督の映画「Diner ダイナー」に登場する食堂の装飾美術を横尾さんが手がけています。各界のクリエイターの作品が競演する極彩色の映像の中でも、壁面を飾る横尾さんの作品が異彩を放っています。

新連載「原郷の森」

文芸雑誌『文學界』で横尾さんの新連載が始まりました。過去や現在のリアルな描写で構成される架空の会話は、横尾さんの自伝のようでもあり、芸術論のようでもあります。物語は始まったばかりですが、絵

画においては主題も様式も自在に変えていく横尾さんのこと、予想もできない展開が待っていることでしょう。

玉置浩二さんの肖像画と公演ポスター

玉置浩二さんとロシア国立交響楽団の共演「THE EURASIAN RENAISSANCE “ромашка(ロマシカ)”」を横尾さんがデザイン。玉置さんの肖像を入れたポスターは3作目です。そして、今回は肖像画も制作されました。阿修羅像のように3つの顔をもつ玉置さんの姿について横尾さんは「命を与える者の象徴」と語っています。



平林 恵 | 当館学芸員

玉置浩二「THE EURASIAN RENAISSANCE “ромашка(ロマシカ)”  
ポスターと肖像画《命を与える者》

## Column 01 横尾忠則「B29と原郷—幼年期からウォーホールまで」

SCAI THE BATHHOUSE (東京) | 2019年5月31日-7月6日

スカイバスハウスは谷中の銭湯をリノベーションしたギャラリーで、もとお風呂場ならではの開放的な空間が印象的です。同ギャラリーで横尾さんが個展を開催するのは、2012年以来7年ぶりとなります。

今回、16点の出品作のうち約半数にあたる7点が、なんと2019年の新作でした。個展タイトルにあるとおり、新作には横尾さんの子ども時代の戦争の記憶や、戦後の消費社会(ポップ・アート)がちりばめられています。しかし、決して批判的メッセージを声高に叫ぶのではなく、あくまでも横尾さんの肉体感覚を通じて感得された、「わたしの戦中戦後」が描かれています。

新作のひとつ60点ものキャンパスの集合体《A.W. Mandala》では、画面のそこ



完成と未完成の間を追求した新作《追憶あれこれ》  
撮影:上野則宏

かしこに「SALE」の文字がステンシルされています。これは昨年秋に横尾忠則現

代美術館で開催された「在庫一掃大放出版」の残響を思わせませし、わざと細部を描き込まず、朦朧としたまま仕上げた《追憶あれこれ》は、本年1月に当館で公開制作された作品からの展開を感じさせます。今年83歳を迎えた横尾さんが、さらに新たな展開をみせる新作の数々。これらはすべて次回の「横尾忠則 自我自損展」にも出品されますので、東京での個展を見逃した方もぜひご覧ください。

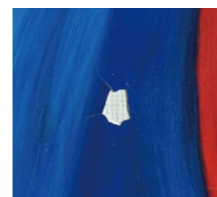


中央はアンディ・ウォーホルをモチーフにした60点組 (1) の新作 撮影:上野則宏

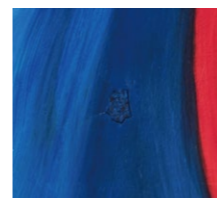
山本淳夫 | 当館館長補佐兼学芸課長

## Column 02 作品・資料の保存と活用6 —展覧会前の修復処置—

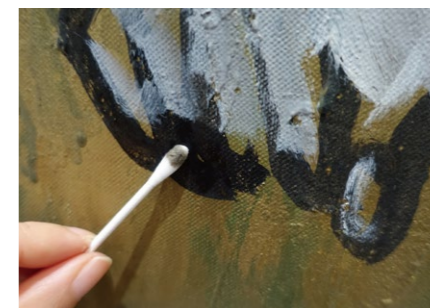
作品を展覧会へ出品する前、展示に耐えられるよう修復処置を施したり、汚れをクリーニングして本来の姿に近づけることがあります。今回は昨年度処置した作品の中から2点をご紹介します。



絵具層の剥落



剥落部への補彩後



綿棒によるクリーニング作業



上部がクリーニング済み部分、下部が汚れている部分

1つ目は、横尾さんの絵画作品の中でも初期のもので、画面のあちこちに亀裂が入り、絵具層が今にも落ちてきそうな作品でした。展覧会が始まる前に、これ以上 絵具の剥離や亀裂が進行しないよう、小筆で少しずつ修復用接着剤を塗布し、鑑賞の妨げにならないよう絵具層が紛失した部分には水彩絵具で補彩を施しました。

2つ目は、置かれていた環境のせい、画面の汚れがひどかった作品です。こちらは、水と綿棒を使って少しずつ表面をクリーニングしました。残念ながら絵具自体の色が落ちてしまいそうな箇所はクリーニングできませんでしたが、それでも作品本来の鮮やかさがよみがえり、とても見栄えが良くなりました。

どちらも必要最低限の作業ですが、作品の劣化を遅らせるためにも大切な処置です。

津崎みぎは | 当館学芸員補助

# EVENT REPORT 01

## 百花繚乱華舞台

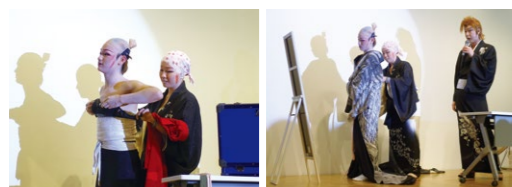
2019年3月3日(日) 14:00-15:30

当館展示室、オープンスタジオ(1F)

出演:三代目澤村謙之介、天海翼(若座長)、天海翔、澤村一也 ほか



天海翼さんによる艶やかな舞い



舞台上での生着替え

やかな舞いはまさに百花繚乱。客席からも待ってましたとばかりに拍手や掛け声が上がり、舞台と観客とが一体となったとも言われぬパワーに、圧倒されっぱなしの90分でした。

林優 | 当館学芸員

横尾さんの公開制作に焦点を当てた「横尾忠則 大公開制作劇場」展の関連イベントとして、大衆演劇一座「劇団澤村」による舞踊ショーを開催しました。美術館で大衆演劇? と不思議に思われた方もいるかもしれません。じつは、これにはちょっとしたエピソードがあるのです。15年前に宮崎県立美術館で公開制作を行なったときのこと、横尾さんは市内の劇場に大衆演劇を観覧に行かれました。そのとき舞台上に立っていたのが劇団澤村の座長・澤村謙之介さんで、澤村さんは後日、横尾さんの公開制作の現場を見学を訪れたそうです。ところが、舞台衣装のままで突然目の前に現れた澤村さんに、横尾さんも観客も仰天! そんな不思議なご縁もあって、このたび公演を行っていただくことになりました。

とはいえ、通常の劇場とは違い、当館の会場には“舞台裏”というものがありません。そこでご提案いただいたのが、ふだん楽屋で行われている化粧から着替えまでを舞台上で公開するというもの。若座長の天海翼さんが舞台上がり、手際よく化粧を整えて着物を羽織り、髪を被ると、15分もしないうちに妖艶な女性へと大変身。続いて、一座の方々による舞踊ショーが始まります。次々と変わる衣装や音楽、きらびやかな舞いはまさに百花繚乱。客席からも待ってましたとばかりに拍手や掛け声が上がり、舞台と観客とが一体となったとも言われぬパワーに、圧倒されっぱなしの90分でした。



澤村謙之介さんの熟練した舞いを大勢の観客が見つめます

## Editors' Choice 01 アーカイブルーム

今回は「人食いザメと金髪美女一笑横尾忠則」展に出品された、当館の一風変わったアーカイブ資料をご紹介します。

本展で展示されたスーパー狂言の装束や小道具類は、2階の会場内でもとくに強い存在感を放っていました。全て実際の舞台上で使用されたもので、天井から吊るされた巨大な「地球儀」を模したくす玉も「王様と恐竜」の舞台装置です。この「地球儀」、実は当館のアーカイブ資料のひとつで、数多くの資料の中でも最大級のものになります。国立能楽堂から移管されて以降、長い間木箱の中で眠っていましたが、久方ぶりに本来の姿で皆さんにご覧いただくことができました。



展示前に埃を払うクリーニング作業

「地球儀」の内側には当時使用された金の紙吹雪がまだたくさん詰まったままになっており、吊り下げたときにくす玉が割れて紙吹雪が降り注ぐかもしれない、とスタッフ一同緊張しながら展示作業を見守りました。ちょっとした移動も大掛かりになってしまう大きさで、館内スタッフのみならず歴代の博物館実習生など、たくさんの人々が携わった資料でした。

展示前に埃を除去すると、赤と水色が良く映え一層明るい印象になりました。会期中は会場内に金の紙が落ちていないか時折見回っていましたが、幸い何事もなく会期を終えることができました。一安心しつつも、青い地球儀から金吹雪が降り注ぐ場面を想像しては1枚くらい散ってはいないものかと、少し名残惜しい気持ちにもなったのでした。

井上佳那子 | 当館学芸員補助

# EVENT REPORT 02

## ワークショップ「重なるイロとカタチ」

2019年5月3日(土・祝) 13:30-16:00

当館展示室、オープンスタジオ(1F)



たくさんの版が完成しました!

横尾さんの作品における「重なり」の表現には、さまざまなものがあります。複数の版を用いたシルクスクリーン作品《Roger and Angelica》や旧作の上に文字を描き入れた《I'M RUNNING OUT OF TIME》、Y字路が描かれた風景に「夜桜」「鯉」「工事作業員」などのさまざまなモチーフが重なり不思議な魅力が溢れた作品《工事中》など。今回のワークショップでは、そんな横尾さん作品からアイデアをもらいつつ、「重なり」をテーマにオリジナルトートバック作りに挑戦しました。使用したのは、紙版画とシルクスクリーンを組み合わせたとても簡単な版画技法です。参加者の皆さんには、お題(「ふわふわしたもの」「強そうなもの」などちょっと頭を使うお題です)にしたがって紙に下絵を描き、それを切り抜いて版をつくってもらいます。1人2版以上を目標としていましたが、みなさんの豊かな発想力と真剣な作業への取り組みのお陰で、たくさんの版が完成しました。版ができたら、まずはお気に入りの1版をトートバックに刷っていきます。そして、2版目からはみんなのつくった版をシェア。より面白い「重なり」の表現に挑戦していきます。他の人がつくった版には自分では思いつかないような素敵なものが沢山あります。そして、意外なモチーフの重なりによって、さらに面白いものができることは、事前に横尾さんの作品から学んでいます。自分のトートバッグにさまざまな版を合わせながら、心ゆくまで重なりを体験してもらいました。最後にみんなで記念撮影。世界に一つだけの素敵なバッグが完成しました。

尾崎幸恵 | 当館学芸員補助



《工事中》の重なりを学びます



綺麗に刷れるか緊張の瞬間



個性あふれるステキなトートバックです

## Editors' Choice 02 MUSEUM SHOP



左:The Sun. 右:New Year Plate 2019



左から2着はTシャツロングワンピースです

ミュージアムショップのオススメ商品をご紹介します。まずは2種類の食器。「New Year Plate 2019」のふちにはお馴染みの「泣き笑い人生」の6つの顔たちが並びます。どちらのデザインにも金色が入っており、食卓が華やぐようなお皿です。そして、生活を彩る様々な小物類。ぷっくりとしたシールは大きめサイズで手帳やスマートフォンなどをデコレーションしてみるのも。ふせんメモは描かれたモチーフにあわせて、さまざまなメッセージを考えるのも楽しそうです。ポーチは入荷以来、多くのお客様にお買い求めいただいている大人気商品ですので、気になる方はお早めに。また、暑い時期にぴったりなTシャツも多く取り揃えています。女性に嬉しいTシャツロングワンピースもございます。詳しくはぜひミュージアムショップにてお確かめください。



上:ダイカットポーチ、左下:ふせんメモ、右下:福福ステッカー

尾崎幸恵 | 当館学芸員補助